

## 流山稲門会

### 【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年十月句会（第一六一回）  
兼題 「菊」

開催日 令和七年十月二十五日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

#### 【六点句】

●ガラス戸を縁に染めし秋の影 柳花

ガラス戸の向こう側にあるのは常緑の植栽であろうか。秋の弱い日差しとガラスを通すことによる幻想的な世界に読者は引き込まれるのだ。

選評 玄

#### 鳥 【四点句】

●群生も一本も魅せ曼珠沙華

小牧

曼珠沙華は秋の彼岸の頃に、多くは群れて一斉に華やかに咲き出でて割に短い花の命を終える。一方で群れ咲いているところから離れて一本だけ咲いている花があつて、作者はその一本にも魅せられているのである。どちらも良しとしながら一本に注目したところがよかった。

選評 夢心

#### 【四点句】

●菊一輪華やぐも無くも気品あり 徹心

菊という難しい植物を簡潔に見事に表現した句といえます。

細部を語らず、一言で、一輪の菊の気品を感じ取る感性には、敬服します。

一体、一輪の菊花は、どんな姿をしているのでしょうか。

選評 艸寛

#### 【二点句】

菊盆を並べる人の長寿なり

玄

鳥

隣家との境に沿って小菊咲く

夢

心

一粒を思ひ出のごと葡萄食ぶ

玄

鳥

菊一片浮かべて楽しむ江戸切子

徹

#### 【一点句】

野菊揺れ左千夫を偲ぶ紫を  
畑からの小菊花びんで好き勝手

小牧  
柳花

菊人形善男善女の揃い踏み

互柳

敬老の演芸子等の出番なり

夢心

バス停をすつと離れて芒かな

玄鳥

さざ波の秋空渡る雲の鳥り

柳花

国人が五穀豊穰願う秋

互柳

#### 【投句】

吾の狭庭菊花繚乱風渡る

徹心

菊人形笑みを浮かべるお姫様

艸寛

車降り前撮り始む秋陽さす

柳花

喜寿迎え新幹線から在来へ

互柳

新米や輝く粒は味の素

艸寛

木々渡る風すでに秋百花園

小牧

故郷や心の中に赤とんぼ

玄鳥

秋祭りなれど浴衣で盆踊り

夢心

明け透けに乳頬張りぬ秋肥ゆる

互柳

秋日和小さなライプ超満員

小牧

秋祭り子供の数の多さかな

夢心

#### 『句会後記』

今句会も、所定の二時間の経過が感覚的に速かった。一句ずつ、作句者と選句者及び同人たちが討議する内容が興味深く、為になるからであろう。生活範囲内の句であっても、はたまた時間を超えて兼題とリンクし、表現する句であっても、それを感じ性で十七文字で表す事の創造の歓びと討議での発見の喜びであろうか。

「ゆずりは」句会も十四年目となり、同人皆高齢になったが、益々良い句を作り、熱い討議をせんと改めて思った次第です。

悠閑亭徹心（宮内）

